

第 15 回政策評価審議会及び第 20 回政策評価制度部会 議事要旨

1. 日 時 令和元年5月17日（金）11時00分から12時00分

2. 場 所 中央合同庁舎第2号館 第3特別会議室

3. 出席者

（委員）

岡素之会長、森田朗会長代理（政策評価制度部会長）、牛尾陽子委員、薄井充裕委員、田淵雪子委員、前葉泰幸委員（テレビ会議による出席）、田辺国昭臨時委員

（総務省）

讃岐行政評価局長、白岩官房審議官、平野官房審議官、箕浦総務課長、佐々木企画課長、砂山政策評価課長

4. 議 題

<第15回政策評価審議会>

1. 会長互選
2. 会長代理指名、部会の構成員指名、部会長指名
3. 委員等挨拶
4. 今後の審議会の進め方について

<第20回政策評価制度部会>

1. 部会長代理指名
2. 各ワーキング・グループ（目標管理型評価、規制評価及び公共事業評価）の構成員指名

5. 資 料

<第15回政策評価審議会>

資料1 政策評価審議会名簿

資料2 政策評価制度部会名簿（案）

資料3 今後の審議会の進め方について（案）

参考資料1 政策評価審議会関係法令

参考資料2 政策評価審議会議事運営規則

参考資料3 行政評価局調査のテーマ選定プロセス（第14回政策評価審議会資料）

<第20回政策評価審議会>

資料1 政策評価制度部会名簿

- 資料2 各ワーキング・グループの構成員
- 資料3 政策効果の把握・分析手法の実証的共同研究
- 資料4 平成30年度 公共事業に係る政策評価の点検結果

6. 会議経過

<第15回政策評価審議会>

(1) 委員の互選により、岡委員が会長に選任された。岡会長が、会長代理に森田委員を、政策評価制度部会の構成員及び部会長を資料2のとおり指名した。

(2) 各委員及び臨時委員から挨拶が行われた。

(3) 事務局から、今後の審議会の進め方について、資料3に沿って説明が行われ、その後意見交換が行われた。意見等の概要は以下のとおり。

- ・ 審議会や評価が効果的・効率的になるよう考えていきたいとの意見があった。
- ・ 委員の現場視察の機会を設け、地方公共団体に加えて、有識者や行政相談委員、当該地域の行政評価局の出先機関とも意見交換したいとの意見があった。
- ・ これに関連して、現場視察の対象地域については、成功している地域と課題が多い地域が選定基準となる。また、各委員の持つ人脈を活用しての現場視察も可能ではないかとの意見があった。
- ・ 従前の外部有識者ヒアリングは制度の説明が中心だったが、現場の有識者の意見を聴取することも考えられるとの意見があった。
- ・ 委員や事務局が率直に意見交換できる場を設けてほしいとの意見があった。
- ・ 調査結果への意見だけでは委員の人脈や知見を活用しきれないため、政策評価の様々なプロセスの中で「知恵の交換」をすべき。例えば、委員が関係機関と勧告について議論することなどは可能かとの意見・質問があった。これに対し、事務局から、関係機関との議論に当たり審議会と連携させていただくことも考えられるとの説明があった。
- ・ 現場視察や関係機関との接触、有識者も交えた率直な意見交換の場など、プラスアルファの活動がより効果的な審議会の運営につながるのではないかとの意見があった。
- ・ 関係機関に審議会としての問題意識を伝達して、制度やその運用の改善につなげてもらうという方法も取り得るのではないかとの意見があった。
- ・ 調査結果の戦略的広報が必要である。調査結果の汎用可能性を示して、調査対象以外の機関でも活用されるようになれば、審議会の発信力も高まる。特に、制度変更につながる調査は社会的インパクトが大きいとの意見があった。
- ・ 重要性が低下しないテーマと、タイムリーなテーマのバランスを取っていくことが重要である。前者は中長期的視点を持ち、継続的に取り上げるべきで、後者は機動的・弾力的な対応が必要であるとの意見があった。

- ・ 調査や分析がしやすい「無理のない」テーマだけでなく、「野心的」、「先取りの」テーマも調査すべきとの意見があった。
- ・ 運用の改善により解決できる課題と、制度の前提の変容により、制度自体の変更が必要な課題がある。そこまで踏み込んだ調査をするならば、分析や指摘の方法を検討する必要があるとの意見があった。
- ・ 取組の不十分さに対してだけではなく、取組自体に意味がないということも指摘していくべきで、こういった指摘はスマートな政府につながるとの意見があった。
- ・ 人口減少という未経験の社会に向かっており、前例踏襲ではなく、新たな視点から政策を評価すべきとの意見があった。
- ・ 同じ分野やテーマでも、様々な視点から分析することにより、新たな課題が見えてくるとの意見があった。
- ・ 分析力の向上や、関係機関への調査結果のフィードバックの強化により、評価の実効性を高める必要があるとの意見があった。

<第20回政策評価制度部会>

- (1) 森田部会長が、牛尾委員を部会長代理に、各ワーキング・グループの構成員を資料2のとおり指名した。
- (2) 事務局から、政策効果の把握・分析手法の実証的共同研究及び平成30年度公共事業に係る政策評価の点検結果について、資料3及び資料4に沿って報告があった。

以上

(文責：総務省行政評価局)